北海鋼機デザインアワード NEWS

6th-vol.2

北海鋼機デザインアワード NEWS は、本アワードの審査会の様子などをレポートするものです
発行:北海鋼機デザインアワード事務局

第２回審査委員会
日時：2023 年 10 月 10 日（火）
会場：(公社) 日本建築家協会（JIA）
　　北海道支部
参加者：
審査委員長
松島潤平
［北海道大学大学院工学研究院准教授］
審査委員
村田利道
［北海鋼機株式会社代表取締役社長］
小西彦仁
［(公社) 日本建築家協会（JIA）北海道支部長］
川島隆司
［北海道板金工業組合理事長］
横尾淳一
［(株) 竹中工務店］（事前審査）
植田暁
［NPO 法人景観ネットワーク代表理事］
事務局
弘田亨一
［北海鋼機デザインアワード事務局実行委員長／（公社）日本建築家協会（JIA）北海道支部］
小倉寛征
［(公社) 日本建築家協会（JIA）北海道支部］
原口佳己
［北海鋼機株式会社］
記録
登尾未佳

5作品が一次審査を通過

6th HK DESIGN AWARD

2023 年 10 月 10 日、
第 6 回北海鋼機デザインアワードの一次審査会が開催されました。
応募は 21 作品。プレゼンテーション資料をさまざまな論点で読み解きながら審査が行われました。
その様子と結果をご紹介します。

●まずはフレキシブルな観点による予備投票

審査は、予備投票からスタート。最初に松島審査委員長から、今回は「鉄がつくるこれからの原風景」をテーマとしていますが、予備投票はあまりその方向に縛られないフレキシブルな観点で行うことが提案されました。そして、プレゼンテーション資料（審査委員に事前配布）の情報をもとに、審査委員一人あたり 5 作品程度を目安に投票されました（横尾委員は所用から事前投票）。

テーマ　「鉄がつくるこれからの原風景」

審査基準
鉄の使用によって、以下のいずれかあるいは複数の項目に該当する作品を評価します。
・優れた景観形成に寄与する外観をもっている
・建築内部または周囲に優れた空間や領域を形成している
・独自性・新規性・将来性のある鉄材の利用をしている
・鉄の特性や経年変化を活かした造形・表情を提案している

●丁寧な審議を経て 5 作品が二次審査へ

つづいて、二次審査に進む作品選定の審議に移りました。予備投票で票を獲得した 14 作品を中心に審議が進みました。最多 4 票を獲得した 3 作品については、投票しなかった審査委員の見解も踏まえて議論がされ、二次審査の対象となることが確認されました。次に、3 票以下の 11 作品について、審査委員それぞれの評価点や意見が出されました。鉄や鋼板の特徴的で意欲的な使われ方、空間性や領域性、景観性、経年変化への向き合い方、素材の繊細な扱い方や表現など、さまざまな視点による読解や批評を通して審議が行われ、最終的には今回のテーマにある“風景”がキーワードとなり、議論が収束していきました。そして、3 票以下の作品について再投票を行うことに。一人 2 票をもって再投票し、2 作品が選定されました。結果、以下の 5 作品が一次審査を通過することになりました。

— 一次審査通過（二次審査対象）作品 —
高野　現太、山脇 克彦／銀斜壁の境界／①
久野　浩志／夏の家／②
須藤　朋之、山脇　ももよ／ Gentō／③
加藤　誠、池村　奈々／芽室町役場／④
佐藤　圭、三木　万裕子／ HOUSE03 - 盤渓の家／⑤
【設計者名／作品名／画像番号】（応募順、敬称略）

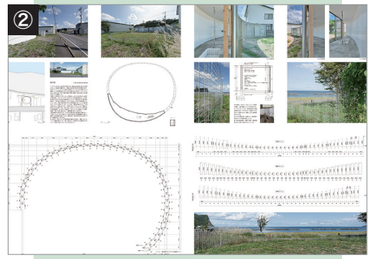
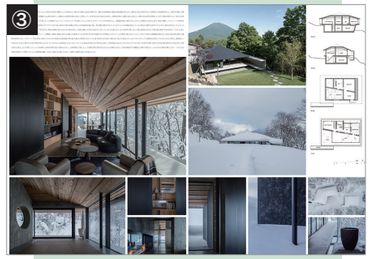
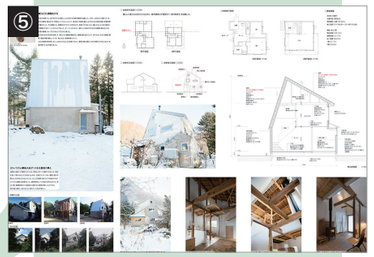
新築住宅からリノベーション住宅、公共建築、外装、インテリア、フェンスまで、多種多様に鉄が用いられた 5 作品が選ばれました。次は、現地審査となる二次審査に進みます。

●一次審査の感想、二次審査へ向けた想い（敬称等略）

松島：冒頭では、テーマが審査に与えるバイアスへの懸念から「一旦自由な観点での議論ができれば」と申しましたが、最終的に作品を絞っていく上では、やはりテーマで掲げた「原風景」という論点が一つの頼りになったと感じています。特に最後の 2 作品を決める際は、鉄の使い方・表現の繊細さにもいろいろなあらわれ方があり、緊張感あるスタティックな風景を作るものがある一方で、日常の素朴な風景を丁寧に作り上げるものもあるのだと改めて学びました。場所ごとに異なる風景への呼応の仕方の違いが明らかな、バリエーション豊かな 5 作品が決まり、実際に見に行くのがより楽しみになりました。
村田：みなさんといろいろなお話しをして、「あー、なるほどな」という視点をいろいろ勉強させていただきました。ありがとうございます。5 作品がいい感じに選ばれてよかったと思います。
小西：一次審査の結果が決まってみると、選ばれた作品はテーマにはまっていると思いました。大きいもの、小さいもの、改修もありますし、バランスよく選ばれたかなと。現地審査では臨場感が出るので、また違う見え方をすると思いますけれど、今日の書類での結果に対し現地での実物が良い裏切りをしてくれることに期待します。
川島：私は審査に参加させていただくのは 2 回目で、前回もそうでしたけれども、やっぱり先生方の視点が広いと感じました。どうしても私は板金の方に目が行きがちですので、大変勉強になりました。二次審査の時には、今日聞いたご意見を参考にしながら審査させていただきたいと思います。
植田：エントリーされた 21 作品を拝見して、あらためて金属とは表現がものすごく多様だな、可能性があるんだなぁと感じました。選ばれた作品は、この多様性と可能性がすごくいいバランスで表れていると思いますし、テーマの「原風景」を浮き彫りにするさまざまな側面が、それぞれの作品に込められていると認識できた、いい議論だったと思います。

二次審査は、11 月上旬を予定しています。現地審査後に行われる審議によって賞が決まります（最優秀賞 1 点、優秀賞 1 点以上、入賞数点を予定）。

①

②

③

④

⑤